

策定の目的

北陸新幹線福井・敦賀開業に向け、新幹線駅から観光地への二次交通の充実を図るとともに、地域鉄道と路線バスのネットワーク強化、DX化の推進など、公共交通の利便性向上を図る。福井県長期ビジョンの基本理念「安心のふくい」を未来につなぎ、もっと挑戦！もっとおもしろく！」に沿って、本県の公共交通政策のステージアップを目指す。

施策の方向性

- 1 持続可能な交通ネットワークの構築
- 2 新幹線駅からの二次交通の充実
- 3 移動を楽しむ公共交通の拡充

計画期間 : 令和 6 年 1 月～10 年度
(2024. 1～2029. 3)

現状と課題

○住民生活における公共交通

- ・ コロナ禍や人口減少により利用者が減少し、交通事業者の経営状況が悪化
- ・ 運転手や技術職員など、公共交通を支える人材の不足
- ・ 利用者からは運行本数やキャッシュレス化などの改善要望が多い
- ・ 高校生や高齢者等の移動手段の確保が必要
- ・ 自家用車の保有台数が多く、通勤に占める自家用車利用率が高い

- ・ 公共交通利用者数の減少 (R元→R3 鉄道▲15%、路線バス▲24%)
- ・ 嶺北地域の総人口は引き続き減少 (H27 63.7万人→R7 61.1万人 ▲4.2%)
一方で、高齢化率は増加 (H27 28.5%→R7 32.3% +3.8%)
- ・ 自家用車保有台数1.72台/世帯は全国 1 位
- ・ 日常生活の86%は自家用車等で移動。通勤・通学の公共交通利用率は8%

○観光における公共交通

- ・ 新幹線開業により交流人口が拡大し、公共交通利用者の増加が見込まれる
- ・ 主要駅から観光地への交通手段は一定程度整備されているが、観光地間の周遊手段が不足
- ・ 県内移動における観光客の公共交通利用割合が低い
- ・ 主要観光地が新幹線駅から離れており、乗ること自体を楽しむ仕掛けが必要

- ・ 新幹線開業による交流人口 +78.5万人 (日本政策投資銀行による試算)

施策の方向性について

方向性 1 : 持続可能な交通ネットワークの構築 「安心のふくい」を未来につなぐ

○ 県民の生活に必要な不可欠な公共交通を、将来にわたって維持・確保します。

- ・ 地域鉄道・路線バスを維持・活性化するため、行政支援を実施
- ・ 交通事業者間での連携強化による運営効率化や利便性向上
- ・ 採用活動の強化や勤務条件の改善等による人材確保
- ・ DX化や新モビリティなど新しい技術を積極的に活用
- ・ まちづくりにつながる公共交通の施策を展開
- ・ 公共交通を利用するライフスタイルへの転換を促進

方向性 2 : 新幹線駅からの二次交通の充実 もっと挑戦！

○ 開業効果を県内全域に波及するため、来県者が利用しやすい二次交通を整備します。

- ・ 観光客目線で乗り換え利便性の高いダイヤへの見直し
- ・ 円滑な周遊観光に向け、多様な移動手段の用意と既存公共交通の輸送力向上
- ・ M a a S による魅力的な商品造成やポータルサイトによる分かりやすい情報発信

方向性 3 : 移動を楽しむ公共交通の拡充 もっとおもしろく！

○ 移動を楽しむ「エンタメ交通」を推進します。

- ・ 地域資源を活かしたイベント列車等の企画や、観光列車など魅せる車両等を導入
- ・ AR/V R などの新技術や、運転体験など公共交通自体の魅力を活かした商品開発

嶺北地域公共交通計画の施策（案）

1 持続可能な交通ネットワークの構築

施策1 公共交通の維持・確保

1 地域鉄道の安全・安定運行の確保

- ・福井鉄道やえちぜん鉄道に対し、設備更新や維持修繕を支援
- ・ハピラインふくいに対し、経営安定化の支援
- ・ハピラインふくいの新駅設置に向けた検討、整備

2 地域間幹線系統バス等の運行維持

- ・国・県・市町が協調し、運行費やバス車両の更新等に対して支援
- ・広域バス路線の利用状況について継続的に検証を行い、運行ルートの見直し等の改善
- ・市町内路線バスやコミバスの運行維持、ニーズに応じてデマンド交通への移行を支援
- ・スクールバスや福祉バス等の活用

3 交通事業者間の連携強化による運営効率化

- ・地域鉄道において、資材の共同調達や検査・保守機器の共同利用等による効率化
- ・鉄道駅やバスターミナルなどの交通結節点におけるダイヤ接続向上、パターンダイヤ化

4 公共交通を支える人材の確保

- ・採用活動の拡充、勤務条件等の改善や第二種運転免許取得への支援



福井鉄道（新型車両）

施策2 DX化や新モビリティなど新技術の活用

1 公共交通のキャッシュレス化等の推進

- ・路線バス・地域鉄道に交通系ICカードを導入
- ・生活型MaaS（ふくいMaaSアプリ）の本格導入
- ・タクシー配車アプリ等の導入



交通系ICカード
（ICOCA）

2 オープンデータ化など交通DXの推進

- ・鉄道・バスの遅延情報等をリアルタイムで把握できるGTFSTRの導入
- ・交通系ICカードの利用データを旅客ニーズの把握に活用



シェアサイクル
（ふくチャリ）

3 人と環境にやさしい公共交通の推進

- ・ノンステップ型バス車両の導入やUDタクシーなどユニバーサルデザイン化の推進
- ・EV車両の導入や車両の小型化など交通GXの推進
- ・交通結節点におけるシェアサイクル等の充実

施策3 まちづくりと連携した施策の展開

1 駅周辺への都市機能の集約

- ・駅周辺に公共施設やオフィス、マンションなど都市機能を集約し、「暮らし」の場を創造
- ・駅周辺の賑わいやおもてなし空間を創出し、公共交通を軸に歩いて楽しめるまちづくりを推進
- ・ハピラインふくい駅の機能向上や交通結節機能の充実など、駅や駅周辺整備に支援

2 駅やバスターミナルなどの利用環境整備

- ・無料Wi-Fiスポット整備、案内サイネージ等の設置などの利便性向上
- ・施設のバリアフリー化の推進
- ・駅やバスターミナル周辺への駐車場・駐輪場整備

施策4 公共交通を利用するライフスタイルへの転換

1 日常生活における利用促進

- ・通勤・通学利用の呼びかけを強化
- ・子どもの頃から公共交通の重要性を学ぶ機会の充実
- ・免許返納者への公共交通利用券の配布等、高齢者に配慮した施策の拡充と周知

2 イベント等における利用促進

- ・学校行事や地域行事における公共交通の利用促進
- ・駅および駅周辺でのイベントの開催



乗車体験（小学生）

1 持続可能な交通ネットワークの構築

施策5 JR越美北線の利用促進

1 越美北線の利便性向上

- ・並行する京福バス大野線等と連携し、共通企画切符の販売や共同イベントの開催

2 地域と連携した利用促進策の推進

- ・戦国列車等のイベント列車の運行や沿線のまち歩きツアーなど観光利用の促進
- ・グループ利用に対する運賃助成やイベントでの利用促進PRなど地域と連携した日常利用の促進



戦国列車

2 新幹線駅からの二次交通の充実

施策6 北陸新幹線各駅からの二次交通の充実

1 主要拠点や観光地を結ぶ鉄道・バス・タクシーの充実

- ・鉄道や路線バス、コミバスのダイヤについて、新幹線発着に合わせたダイヤ見直しを実施
- ・円滑な周遊観光実現に向け、路線バスや観光周遊バス等の充実、定額タクシー制度の導入・拡充
- ・新幹線駅や観光地でのタクシー配車の充実、キャッシュレス決済の拡充
- ・公共交通のキャッシュレス化等の推進（再掲）

2 新幹線駅から目的地への案内機能の強化

- ・観光客向け時刻表、ポータルサイト等の整備
- ・観光案内所の整備・機能強化
- ・駅やバスターミナルにおける案内情報の充実



観光型MaaS（tabiwa）

施策7 複数の交通モードの連携強化

1 公共交通を活用した観光モデルルートの設定

- ・JR西日本の観光型MaaS「tabiwa」と連携し、観光施設の入場券付き周遊きっぷ等を企画
- ・地域鉄道や路線バス、観光タクシー、レンタサイクル等を活用した観光モデルルートを設定

2 公共交通ポータルサイトによる情報発信

- ・モデルルートやお得な周遊きっぷ情報などを掲載したポータルサイトを開設

3 移動を楽しむ公共交通の拡充

施策8 エンタメ交通の推進

1 地域の観光資源と連動したイベント列車等の運行

- ・恐竜博物館や一乗谷朝倉氏遺跡、酒蔵など地域の観光資源と連動したイベント列車等を企画

2 観光列車・ラッピング車両等の導入

- ・地域の魅力を発信する観光列車やラッピングバス車両等を導入

3 新技術を活用した新たな交通体験の創出

- ・AR／VR技術を活用した観光体験の提供
- ・GPS機能を活用した公共交通によるデジタルスタンプラリー
- ・運転体験や車両基地見学会等を内容とする鉄道イベントを鉄道事業者が合同で実施



恐竜バス